

平成29年度 59号

函館市学校教育推進の指針

アプローチ

最後までやり切る指導を
函館のスタンダードに！

夢とロマンに満ち溢れた教育は未来を創造する原動力

函館市教育委員会



函館市の学校教育の充実に向けて

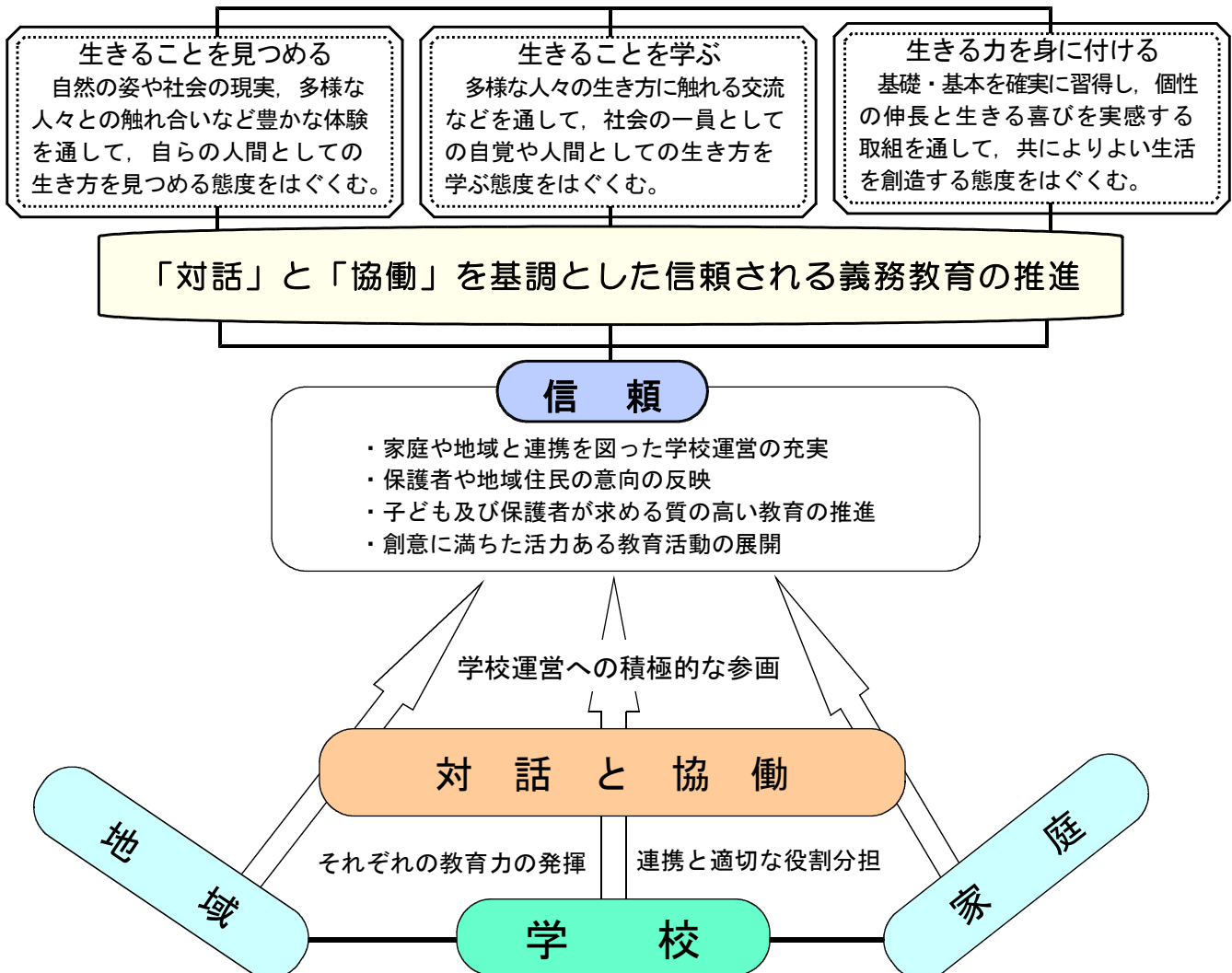
〈函館市義務教育の基本理念〉

心豊かに学び 共に未来のふるさとを拓く子どもをはぐくむ

めざす子ども像

- **個性豊かに生きる子ども**
「確かな学力」を身に付け、個性や創造性を発揮し、自らの生き方を創り出す子どもをはぐくみます。
- **優しさをもって生きる子ども**
責任とモラルを重んじ、他者を思いやり、人間尊重の精神や自他の生命を大切にすることをはぐくみます。
- **たくましく生きる子ども**
健やかな心と体を持ち、理想や自己の目標に向かって努力する活気に満ちた子どもをはぐくみます。
- **函館に生きる子ども**
ふるさとのよさを見付け、誇りをもち、先人の生き方に学び、進取の精神をもって新たな文化を創造する子どもをはぐくみます。
- **共に未来を生きる子ども**
社会の変化に主体的に対応する力をもち、広い視野に立って社会に貢献する子どもをはぐくみます。

基本姿勢 生きることを見つめ 生きことを学ぶ学校教育の創造



平成29年度の取組

学校教育の指針である「アプローチ」は、「函館市義務教育基本計画」の実現を目指し、具体的に取り組むための指針を示しているものです。

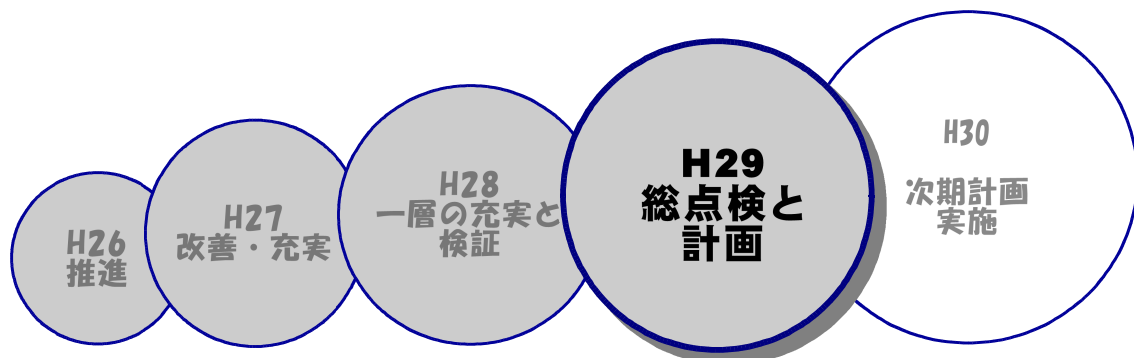
基本計画の後期における重点項目策定に係り、各学校(園)の実態や本市の教育課題を受け、4つの重点指導事項として整理し、取組を進めてまいりました。

平成29年度は、最後までやり切る指導の「定着」を目指した4つの重点指導事項を位置けるとともに、「函館市義務教育基本計画」の最終年度であることから、これまでの10年間の総点検および平成30年度以降の次のステップに向けた計画作りの視点として「今後に向けて」を位置付けました。

最後までやり切る指導を函館のスタンダードに！



【函館市の教育の一層の充実に向けて】



今後に向けて

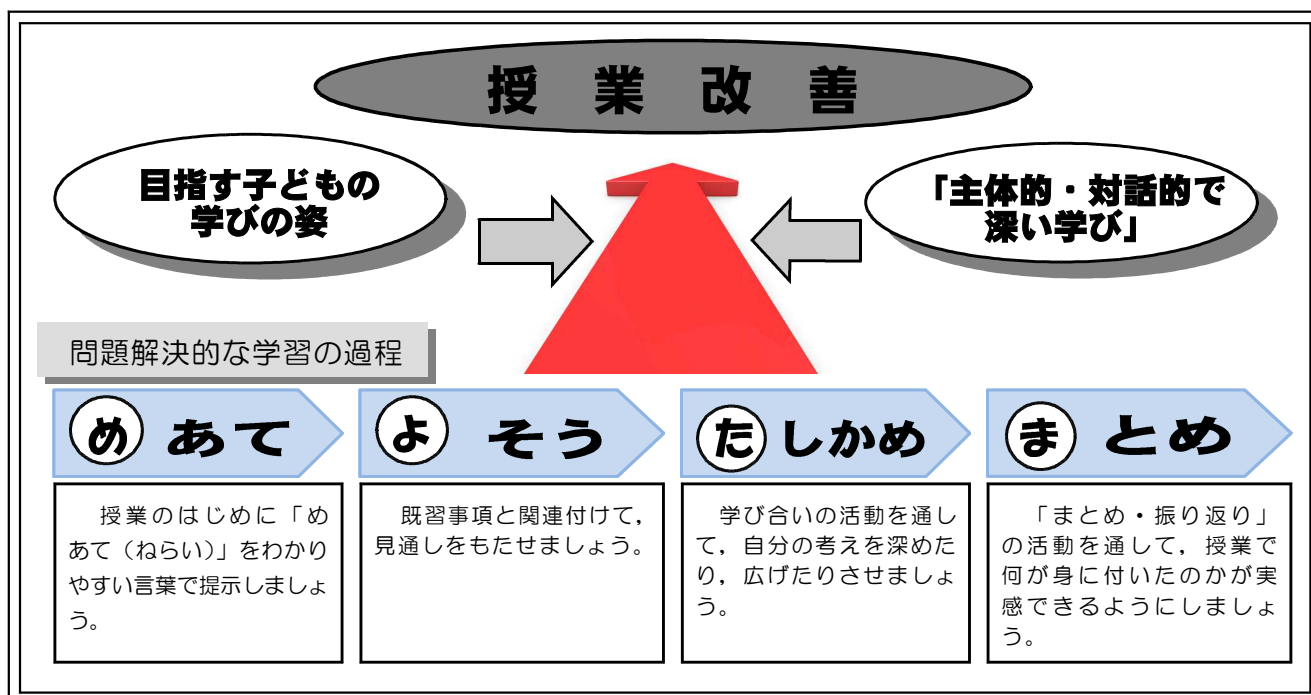
次期学習指導要領および函館市教育振興基本計画の実施に向け、今後の国の動向や次期学習指導要領を踏まえるとともに、子どもや地域の実態、さらには、総点検の結果等も生かしながら、各学校の実態に即した教育活動の計画づくりを進めましょう。

重点指導事項Ⅰ：粘り強さを育む組織的な学習指導の「定着」を目指して

1 「探究型の授業」(アクティブ・ラーニング)の充実に向けた組織的な取組の推進

【達成目標】□ 問題解決的な学習の過程を通した「探究型の授業」(アクティブ・ラーニング)に組織的に取り組む。

- 具体的な「目指す子どもの学びの姿」を全教職員で共有し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図りましょう。
- 研究担当者等を中心に「探究型の授業」(アクティブ・ラーニング)の充実に向けた組織的な校内研究を推進しましょう。



2 学習規律の徹底を図る指導の一層の充実

【達成目標】□ 学習規律の定着状況から課題や改善の方策を明らかにするとともに、確実な定着を目指し、全校体制で徹底して取り組む。

- 子どもの実態に即した内容になるよう見直しをするとともに、学級掲示の再整備を行うなど、学習規律の徹底に向けて全校体制で確実に取り組みましょう。
- 子ども自身にも学習規律の大切さについて考えさせるとともに、教師がほめたり認めたりするなどして、よりよい学習態度に対する意識を高めましょう。

3 望ましい学習習慣の定着を図る指導の一層の充実

【達成目標】□ 望ましい学習習慣の定着を目指し、家庭や地域と連携して取り組む。

- 子どもが授業で学んだことを家庭学習に生かしたり、家庭学習で取り組んだ内容を授業で活用したりすることができるよう、授業と家庭学習を関連付けましょう。
- 子どもの生活習慣等についての実態を家庭・地域と共有し、望ましい学習習慣の定着に向け、工夫して取り組みましょう。

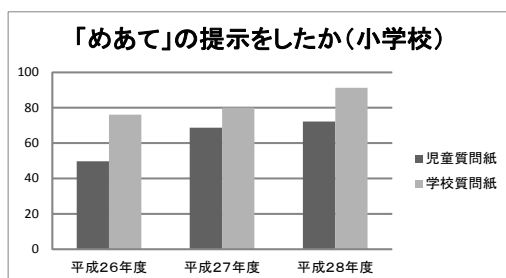
学習指導に係る取組の総点検を行いましょう。

(1) 学力向上に向けた取組の総点検

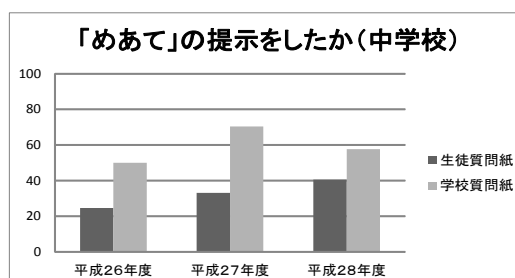
- 学力向上に向けた取組と校内研修との関連を明確にするなどして、校内の推進体制を確立している。
- CRT検査や「全国学力・学習状況調査」等の各種調査結果を活用し、子どもの学力の状況を的確に把握するとともに、改善の方策を明確にしている。
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、繰り返し学習や補充学習、発展的な学習など、子ども一人ひとりの状況に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図っている。

(2) 「探究型の授業」の充実に向けた取組の総点検

- 学習過程を明確にした指導を行うとともに、評価規準に基づいた学習の「めあて」の提示、「めあて」に正対した「まとめ」を行っている。
- 子どもたちが「何を学習するのか」見通しをもてるように既習事項と関連付けたり、分かりやすい言葉で「めあて」を提示したりするなどして学習を進めている。
- 「まとめ」を生かした適用問題に取り組ませ、定着を確かなものになっている。



子どもと教師の見取りに差があります。



(3) 学習規律に係る取組の総点検

(全国学力・学習状況調査より)

- 内容や指導方法について、教職員間で共通理解を図っている。
- 定着状況を把握し、改善・充実を図っている。

(4) 学習習慣の定着に向けた取組の総点検

- 家庭学習の仕方や内容について指導し、学習習慣の定着を図るとともに、主体的に取り組む態度を育て、子ども自身が取組を振り返ることができるようにしている。
- 近隣の小・中学校において、学習規律や家庭学習の仕方を交流し、一貫性のある指導ができるよう工夫している。

今後に向けて

- 教育課程の編成・実施に当たっては、地域の人的・物的資源を活用するなど、学校内に閉じずに、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、目指すところを社会と共有し、連携することが大切です。
- これからの時代に求められる資質・能力を子どもたちに身に付けるためには、一人ひとりに応じた多様で質の高い学びを引き出せるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が必要です。

子どもや学校・地域の実態および総点検の結果等も加味して、平成30年度以降の計画づくりを進めましょう。

重点指導事項Ⅱ：組織的な支援による特別支援教育の「定着」を目指して

1 子どもの成長を支える支援の一層の充実

【達成目標】□ 「はこだて子どもサポートシート」に基づいた支援の一層の充実を図る。

- 特別支援教育コーディネーターや学級担任が中心となり、実態把握を基に、保護者や関係機関等と連携を図りながら「はこだて子どもサポートシート」を作成しましょう。
- 「はこだて子どもサポートシート」を校内支援委員会で活用し、「いつまでに、だれが、何を、どのように」など、具体的な支援の在り方についての共通理解を図り、一人ひとりに応じた支援や指導の充実を図りましょう。
- 進学や転出入等の際は、本人や保護者の理解を得た上で「はこだて子どもサポートシート」を確実に引き継ぎ、一貫した支援につなげましょう。

【様式B】			
長期目標（1年後まで）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1単位時間、教師の指示に従い、落ち着いて学習に取り組むことができる。 ・ 与えられた課題に対して、最後まで粘り強くやり抜くことができる。 			
短期目標（7月まで）	指導内容・場面	指導・支援方法	評価（子どもの様子）
<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍級や交流学級の環境に慣れ、様々な活動に自信をもって取り組む。 </div> <div> <p style="text-align: center;">活</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> （日常生活の指導） ・ 役割 ・ 手伝い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ （指導者が）スケジュールを個別に作成し、活動に見通しをもたせる。 ・ 特別支援学級で事前に練習し、活動に慣れさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>② 最初は必要な視点や記述できるところのみに焦点化し、作成しましょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③ 支援内容について全教職員で検討し、内容の充実を図りましょう。また、作成だけにとどまらず、PDCAサイクルで見直し、精度の高いものに改善していきましょう。</p> </div>
<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">国</p> </div> <div> <p style="text-align: center;">語</p> </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① まずは学級担任もしくはコーディネーターが原案を作成しましょう。今後、通常の学級における支援を要する児童生徒についても作成することが大切になります。</p> </div>		
<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">算</p> </div> <div> <p style="text-align: center;">数</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ かけ算や割り算の意味が分かり、簡単な計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数と計算 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ （指導者が）学習の定着状況に応じた数種類のプリントを準備する。 	

2 組織的な校内支援体制の一層の充実

【達成目標】□ 校長のリーダーシップの下、学校としての指導体制の充実や組織力の向上を図る。

- 特別支援教育コーディネーターの役割を明確にし、校内支援委員会や校内研修の活性化を図るとともに、保護者や関係機関等との効果的な連携を図りましょう。
- 通常の学級の担任を含めた全ての教職員で校内研修に取り組むとともに、教育センター等で実施している研修を計画的に受講するなど、学校全体で専門性の向上に努めましょう。

特別支援教育に係る取組の総点検を行いましょう。

(1) 校内支援体制の総点検

- 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制を確立し、適切な支援の在り方や就学に関すること等を校内支援委員会において計画的に協議するなど、校内支援体制が充実している。
- 特別支援教育コーディネーターの役割を明確にすることで、校内研修や保護者、関係機関との連携等が充実している。



(2) 個に応じた支援の総点検

- 特別支援教育コーディネーターや学級担任が中心となって「はこだて子どもサポートシート」を作成し、組織的・継続的な支援が行われるなど、個に応じた支援が充実している。
- 「はこだて子どもサポートシート」作成後、支援内容等をPDCAサイクルで見直すなど、計画的に内容の改善を図る体制が整っている。

(3) 全ての教職員の専門性の向上に関する総点検

- 全ての教職員で事例検討や「校内研修プログラム」を活用した校内研修に取り組みなど、学校全体で支援の質の向上に努めている。
- 北海道教育センターで実施している研修等を計画的に受講し、特別支援教育に関する知識や技能を高めるとともに、研修内容を教職員で共有し、支援に生かす体制が整っている。

北海道教育センター専門研修（H27～29）

<基礎講座>	<応用講座>
◇特別支援教育概論	◇WISC-IV応用
◇校内支援体制の充実	◇アセスメントと支援
◇子どもへの対応	◇子どもへの対応の実際
◇WISC-IV基礎	◇スーパーバイズ

今後に向けて

- 子どもの自立と社会参加を目指し、必要な力を養うために、一人ひとりの教育的ニーズや発達の段階に応じた支援、環境の整備を一層充実させていくことが大切です。
- 教育上特別な配慮を要する子どもへの支援を学級全体への支援として工夫することが大切です。
- 誰もがお互いに人格と個性を尊重し支え合える社会の実現を目指し、一人ひとりが多様性を認め合い、協働して生活していくことができるよう、交流及び共同学習の指導を学校の教育活動全体で進め、達成感や充実感を実感できるように工夫することが大切です。

子どもや学校・地域の実態および総点検の結果等も加味して、平成30年度以降の計画づくりを進めましょう。

重点指導事項Ⅲ：支持的風土を築く学年・学級経営の「定着」を目指して

1 道徳教育の一層の充実

【達成目標】□ よりよい生き方を実践する力をはぐくむ道徳教育を推進し、子どもの豊かな心の育成を目指す。

- 「目指す子ども像」を明確にするとともに、道徳教育の全体計画に基づいた指導内容について全教職員で共通理解を図り、組織的に取り組みましょう。
- 道徳の授業の充実に向けては、学習指導要領解説で内容項目の指導のポイントを確認した上で、学習活動の工夫に努めましょう。

「考え、議論する道徳」の授業への質的転換

■ 多面的・多角的に考える場面の設定

読み物教材において、登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考え、自分のこととして捉えたり、議論したりするなどして、深く考える場面を設定しましょう。

■ 発問の工夫

子どもの考えの根拠や、問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促すなど、発問の工夫を図りましょう。

■ 道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの擬似体験的な表現活動を通して、実際の問題場面における実感を伴う指導を行いましょう。

2 支持的風土の醸成を図る学年・学級経営の一層の充実

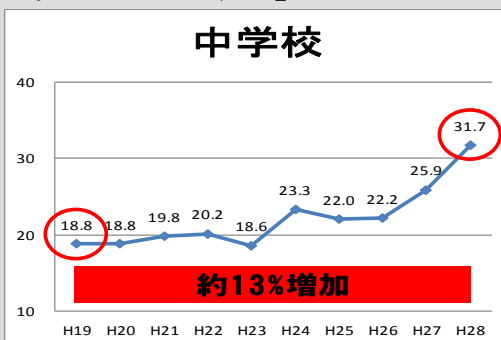
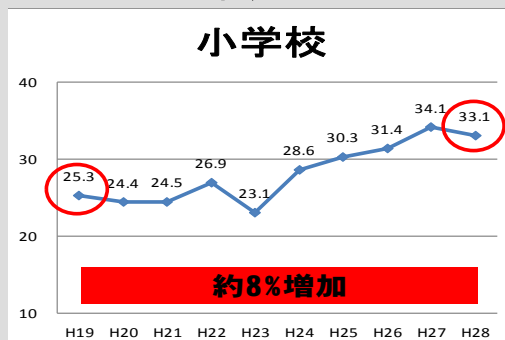
【達成目標】□ 子ども一人ひとりが活躍したり、互いを認め合ったりする場や機会を意図的・計画的に設定する。

- 自分の役割に責任をもたせたり、努力したことを評価したりするなどして、自己有用感を味わうことができる指導の工夫に努めましょう。
- 日常の子どもの様子の交流や教育相談等を組織的に行うとともに、アセスやQ-U等を活用するなどして、多面的・多角的な子ども理解に努めましょう。

■■ 子どものよさを引き出し、自己有用感を高めましょう ■■

平成28年度全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目において、平成19年度から10年間で「当てはまる」と答えた子どもの割合が、小学校では約8%、中学校では約13%増加しました。自分のよさや可能性を再確認しながら、自己有用感を育み、新たな自分に気付くことに喜びを味わわせるような指導の工夫に努めましょう。

「自分にはよいところがあると思いますか」



「居場所づくり」と「絆づくり」を組織的・計画的に推進しましょう！

※ 具体的な取組については、「平成28年度学校教育指導資料」をご参照ください。

生徒指導に係る取組の総点検を行いましょ。

(1) 組織的な生徒指導体制の総点検

- 函館市いじめ防止基本方針に基づき、適切にいじめに対応するとともに、不登校等の未然防止や早期発見・早期対応のため、子どもが日常的に相談できる教育相談の場の充実やスクールカウンセラー・心の相談員等の専門家、関係機関等の活用により、子どもに寄り添い、共感的な理解に努めている。
- 子ども一人ひとりの状況や、集団の特性や指導の在り方について話し合う場を定期的に設けるなど、子ども理解に基づく指導に努めている。
- 問題行動に関する初期対応等について教職員間で確認するとともに、指導内容の評価や改善などを定期的に行い、適切な指導に努めている。

(2) 学年・学級経営における総点検

- 子どものよいところを学級全体に広めたり、学級の中での役割を明確にしたりするなど、互いのよさや個性を認め、自己有用感を高める指導の充実に努めている。
- 子ども一人ひとりが互いに尊重し、望ましい人間関係を育むために、子どもの個性や特性を重視するとともに、学級のきまりや集団としての目標の設定に子どもも参画するよう工夫している。
- よりよい学年・学級経営の在り方について研修を深め、小学校における教科担任制のほか、チーム・ティーチングなどの指導体制の工夫や、共同学習、異学年交流等の場面の設定など、学校ぐるみで支持的風土を築く具体的な指導を充実させている。
- 指導の方針や具体的な指導方法を明らかにするために、「Q-U」「アセス」等、客観的な評価結果を活用し、総合的な子ども理解に努めている。

(3) 道徳教育の充実に向けた総点検

- 道徳教育推進教師等の役割を明確にし、組織の活性化を図るとともに、道徳の教科化に向けて目的や改善の要点等について理解を深める研修の充実に努めている。
- 学習指導要領解説での内容項目の指導のポイントを確認するとともに、「私たちの道徳」等の教材を効果的に活用し、ねらいとする価値に迫る授業づくりに積極的に取り組んでいる。

今後に向けて

子どもや学校・地域の実態および総点検の結果等も加味して、平成30年度以降の計画づくりを進めましょ。

- 子どもの学習活動や学校生活の基盤となる学級の意義や重要性を改めて捉え直すとともに、集団指導と個別指導の相互作用により、どのような資質・能力の育成を目指すのかなどを踏まえながら、その機能が発揮されるようにしていくことが大切です。
- 子どもたちに、多様な人々と互いを尊重し合いながら協働し、社会を形作っていく上で共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識などをはぐくむとともに、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて考えを深め、自らの生き方をはぐくむことが大切です。

重点指導事項Ⅳ：今日的な教育課題の解決を図る取組の「定着」を目指して

1 体力向上の取組の充実

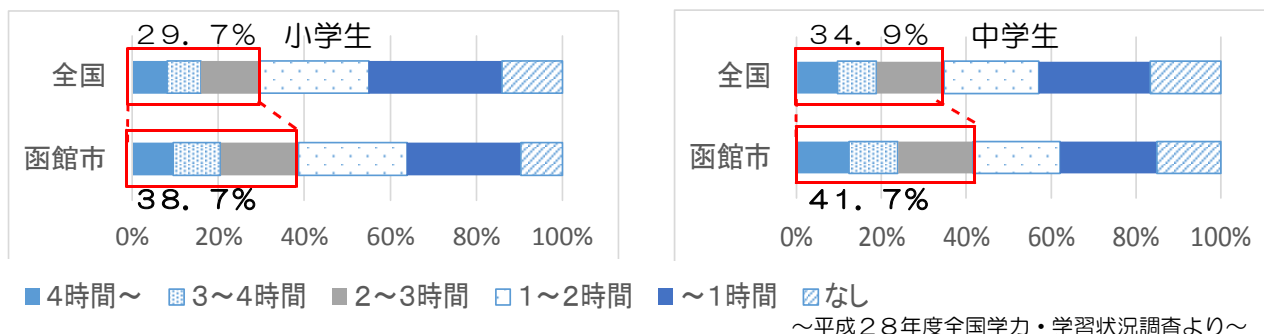
【達成目標】 □ これまでの体力向上の取組について検証し、課題解決に向けた取組の一層の充実を図る。

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の結果を踏まえ、子どもの実態に応じた取組を充実させましょう。
- 体力向上を図るため、体育の授業において、運動量を十分に確保できるよう、意図的・計画的な指導を徹底しましょう。
- 子どもが運動の大切さや楽しさを実感できるよう、体育の時間、休み時間、体育的行事等の活動内容を工夫するなど、子どもが主体的に運動に取り組めるようにしましょう。

2 生活習慣に関する指導の充実

【達成目標】 □ 望ましい生活習慣の確立に向けた指導の充実を図る。

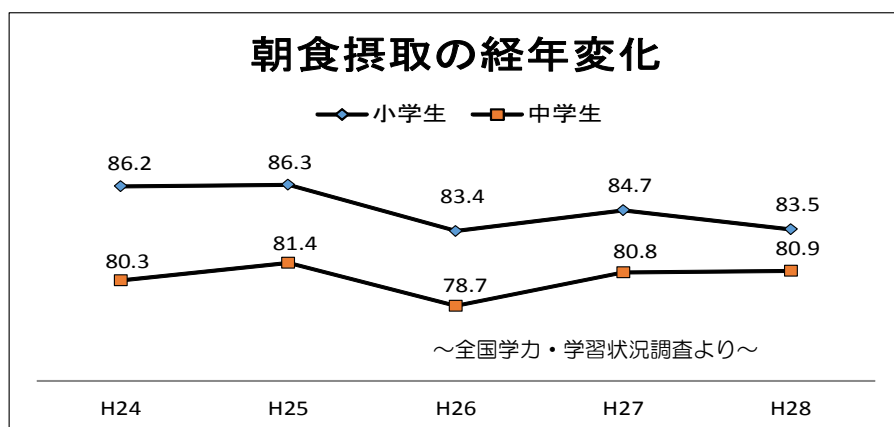
- 家庭や関係機関等と連携し、テレビやゲーム、ケータイ等に触れる時間を決めたり、「ノーテレビ・ノーゲーム日」を設定したりするなど、指導内容等を見直し、望ましい生活習慣の定着に向けた取組を進めましょう。



1日のテレビゲームの時間（月～金曜日）

2時間以上テレビゲームをしている子どもの割合が、非常に高い傾向にあります。

- 食に関する全体計画や具体的な指導計画について見直し、望ましい食習慣の形成や食に関する正しい知識、実践力を身に付けさせるよう指導の充実に努めましょう。



※ 具体的な取組については、「平成26年度学校教育指導資料～子どもの健やかな成長のために～」をご参照ください。

3 情報モラルに関する指導の充実

【達成目標】 情報モラルの定着に向けて、子どもの実態に応じた指導の一層の充実を図る。

- ネットトラブルの根絶に向け、これまでの取組について検証し、子どもたちがケータイ等の利便性や危険性等について理解を深め、適切に使用することができるよう指導の充実に努めましょう。
- 情報モラルを確実に身に付けさせるため、家庭・地域・関係機関と連携を図りながら、道徳の授業や情報モラル教室の開催等、発達の段階に応じた具体的な指導を進めましょう。

4 ICT機器の活用の促進

【達成目標】 ICT機器を活用した教育活動の一層の充実を図る。

- 実物投影機をはじめとしたICT機器を積極的に活用しましょう。
- ICT機器の特性を理解し、授業等における効果的な指導方法について研修を深めましょう。

5 ふるさと教育の充実

【達成目標】 函館の特性を生かした学習、伝統文化や芸術に触れる体験活動の充実を図る。

- 函館のまちを創造してきた人物等についての学習や函館の特色を生かした体験活動等、ふるさと函館への関心を高め、愛着や誇りをもてるような学習活動の工夫に努めましょう。
- 地域人材の活用、伝統文化や芸術に直接触れる活動等、ふるさとの文化や伝統についての理解を深める学習活動の工夫に努めましょう。

上記5つの項目に共通した点検項目にしています。

今日的な教育課題に係る取組の総点検を行いましょ。

- 各種調査結果等を生かし、子どもの実態に即した指導内容の見直しを図っている。
- 日常での具体的な指導内容が校内で統一されている。
- 家庭・地域・関係機関との連携を図っている。
- 教職員の共通理解が図られ、適切な役割分担が行われている。
- 指導力向上に向けた校内研修を行っている。

今後に向けて

- 学校教育目標と、それに基づき育成すべき資質・能力を設定し、それらを踏まえて、教科横断的な視点で教育課程を編成することが大切です。
- 課題を乗り越え、生涯にわたって健康で安全な生活を送ることができるよう、必要な情報を自ら収集し、適切な意志決定や行動選択を行うことができる力を子どもたち一人ひとりにはぐくむことが大切です。
- 発達の段階に応じて積み重ねていく学びの中で、子どもたちが地域や社会と関わり、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を身に付けることができるよう、キャリア発達を促すキャリア教育の視点が大切です。

子どもや学校・地域の実態および総点検の結果等も加味して、平成30年度以降の計画づくりを進めましょう。

校内研修を充実させましょう！

授業づくりのポイントについては、「H28年度函館市学習状況調査実施報告書」p9をご参照ください。

学びの姿を共有

【目指す子どもの学びの姿は・・・】

- 自校の子どもの実態把握
- 目指す子どもの学びの姿の具体的なイメージの共有（授業中の姿）



授業改善の方策

【目指す子どもの学びの姿を表出させるために・・・】

- 授業を支える深い教材研究
- 目標や評価規準に照らし合わせた授業の構成
- 支持的風土を醸成するような教師のかかわり

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して！

【新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実】

「学びに向かう力・人間性の涵養」
「生きて働く知識・技能の習得」
「思考力・判断力・表現力等の育成」



事前研

◎ 多様な視点からじっくり協議しましょう。

・ 学年の枠を超えて **縦割り**で

・ 教科の枠を超えて **学年**で

・ 学校の枠を超えて **異校種**で（幼稚園・小・中・高等学校）

- 目標が達成されるような授業になっているか？
- 目指す子どもの学びの姿を表出させるための工夫がされているか？
- 子どもの学習意欲が持続する発問か？ など

* 完成された指導案の検討ではなく、大まかな流れができた段階で話し合いましょう。

公開授業

◎ 全教員で確認しましょう。

- ・ 本時の目標が達成されましたか。
- ・ 校内で共通理解された目指す子どもの学びの姿が見られましたか。
- ・ 目指す子どもの学びの姿を表出させるための教師のかかわりは適切でしたか。

授業参観の視点については、「H27年度函館市学習状況調査実施報告書」p4～11をご参照ください。

次につなげる

事後研

◎ 次の事前研につなげましょう。

- ・ 成果と課題を踏まえつつ、一人ひとりが振り返る時間を設定し、具体的な方策等を明確にするとともに、全教員で共有しましょう。